

編集 後記

Semester制が導入されてから、もう十分に慣れた頃と自負していたのですが、歳のせいなのでしょう。11月に入ってからの時間の進みが遅いこと、遅いこと、一体どうしたのでしょうか。勿論、半年30コマの消化がきつい事もあるのですが、私ごとき年寄りには Semester制が肉体的に負担になっていることも事実です。お陰で風邪が一ヶ月以上も続き、教員室の受付の皆さんには、‘前田風邪だ’といわれ非難ごうごう、つらい毎日でした。所員の皆さんも健康には十分にご留意ください。

さて、2007年度版の『年報』第42号を刊行する運びとなり心から嬉しく思うとともに、刊行に当たり執筆協力を頂いた参与と所員をはじめとする関係者に感謝申し上げる次第です。

本年度の編集経緯をみますと、論文9編、研究ノート1編、書評1編の執筆申し込みをいただきました。特に、本年度は構成上、社研叢書の刊行もあり何とか書評を入れたいと思っていましたので、土屋所員にはご無理をお願いいたしました。ありがとうございます。また、本年度から新しく内田所長を迎え、新体制にて発足した年でもあり心機一転頑張っていきたいと思っておりますので、所員の皆さんにはどうかご協力を

お願いいたします。昨年までは社研叢書の校正は編集の担当ではありませんでしたが、写真校正のミスが起こったため本年度から編集のほうで最終チェックを担当することになりました。仕事が増えることは好みませんが、これもいたし方がないと幾分あきらめています。先日、西川善介参与が他界なされました。所員一同心よりお悔やみ申し上げます。

また、先生の本年報掲載の『日本林業史Ⅱ』が遺稿となってしまいました。ご遺族によると、『日本林業史』の完結編が見つかったそうで、ぜひともどこかで掲載したいと思います。また、本年度は昨年問題になった投稿規定枚数100枚以内も何とかクリアでき胸を撫で下ろしています。編集担当としては、今年は『年報』よりも月報の原稿の集まり具合に久しぶりに振り回され、10月号以降一喜一憂してしまいました。来年度は何とか広報を充実することで順調に回転させていきたいと思っております。

さらに、事務・編集作業全般をサポートして頂いた土屋みな子さんには、いつもながら無理なことをお願いしまして大変申し訳ありません。この場をお借りしてお礼申し上げます。土屋さんにはいつもホッとするメールで慰められていますが、ご本人は分館5階奥で独り寂しいようですから、所員の方には時折社研事務所にお立ち寄りください。美味しいコーヒーが待っていますよ。また、最後になりましたが、本年度も編集作業を進める上で、公人社の大出明知氏には何かとご無理をお願いし大変お世話になり、心から御礼申し上げます。

(前田 和實)